

特別編

こんにちは。塾長の大井です。

5期生の入試のさなか、このホームページを運営している会社が「私の独立・企業物語」というテーマでエピソードを募集していました。少しでも5期生の後押しになればと思って、私もTOP設立のエピソードを書いて応募しました。

結果としては1次審査を通っただけの拙文ですが、私たちには原点を振り返るいい機会となりました。

ご笑覧下されば幸いです。(前回のつづきです)

『何度でもこの道を。』～後編～

それは忘れもしない7年前の開成中合格発表の夜のことだ。

かつて同じ想いで多くの合格を共にした元ペアの先生がいた。

(7年前はお互い別の担当とペアを組んでいた。その年、2人とも開成中に合格者を2人ずつ送ることができた。麻布中・武蔵中もほぼ全員が合格し、男子御三家中全てに合格者が出せた年だ。)

その夜、お互いの生徒の合格を電話で報告し合い、2人で祝杯を挙げる

ことになった。普通は、自分のペアと飲みに行くものだが、互いに行かなかったのは、月並みだが、運命と言うほかない。

その席で彼＝田宮は言った。

「受かったけど、全員受からせてやりたかったなあ……。大井先生とだったら、絶対に全員受かってたよ。」

それを聞いた瞬間、私は言っていた。

「だったら、また一緒にやらないか。2人で塾を作って。」

不思議なことに、彼は全く驚かなかった。

ただ静かに言った。

「やろう。」

今思い出しても、あれは不思議な感覚だった。

決意でも、選択でも、希望でもない、何か大きな存在に名指しで呼ばれた気がした。

摂理とでも言うのだろうか。

あの瞬間、TOP は生まれた。

あれから7年、子どもたちに学ぶ奥深さや面白さを伝え、弱さや情けなさ向き合いながら、毎年御三家中合格者を出し続けている。

うまくいかないことはある。悔しさに涙することもある。

でも辞めたいと思ったことは一度もない。

TOP で子どもたちと向き合っている今は、もう誰も目指していない。

もう誰かに憧れることもない。

目指すのは理想の自分と、子どもたちと最幸の受験道を歩むことだ。

私は、生まれ変わっても自分でありたい。

そして、この道を生きたい。何度でも何度でも。

2019年2月25日

大井雄之